

# 環境活動レポート

2014年度

(2013年10月～2014年9月)

光和工業株式会社

代表者 齊藤 征夫

発行日 2014年12月25日

改訂日 2015年1月30日

# 目次

1. 環境方針
2. 認証・登録範囲
3. 組織の概要
4. 環境目標とその実績及び評価
5. 環境活動計画
6. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容
7. 中期目標
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
9. 代表者による全体の評価と見直しの結果
10. 社会貢献



# 1. 環境方針

## 「基本理念」

光和工業有限会社は、当社が行う事業を通じ、かけがいのない地球の環境保全が私たち世代の重要課題の一つであると考え、循環型社会実現のため、全社員一丸となって環境負荷の低減に取り組むとともに、継続的な改善を図ります。

## 「行動指針」

1. 自らが施工・提供する製品およびサービスに関する事業活動において、以下の事項を推進します。
  - (1) 自らの責任に係る顧客からの苦情”〇”を目指します。
  - (2) 環境に配慮した工法を工夫し、推進します。
  - (3) 収集運搬に係る作業の環境負荷低減を図ります。
  
2. 環境目標を設定し、省エネルギー・省資源、水使用量の削減、化学物質使用量の削減、廃棄物の減量等を行います。
  - (1) 二酸化炭素排出量の削減  
電力使用量及びその他の石油起源エネルギー使用量削減
  - (2) 廃棄物排出量の削減
  - (3) 総排水量の削減
  - (4) 化学物質使用量の削減
  - (5) グリーン購入の推進
  
3. 当社の環境活動に係わる法的要求事項及び当社が同意したその他の要求事項を遵守します。
  
4. 全従業員の参加による環境活動を推進します。
  
5. 環境方針は、全従業員に周知し環境活動レポートを公開します。

2013年7月1日 発行  
2014年7月10日 改訂

光和工業有限会社  
取締役 齊藤 征夫

## 2. 認証・登録範囲

- ・認証・登録事業者 光和工業株式会社  
東京都品川区東大井2丁目6番1号
- ・事業活動 鋼構造物工事業、とび・土工工事業、管工事並びに、  
産業廃棄物収集運搬業
- ・事業事業所 本社・工場
- ・対象組織 全社

## 3. 組織の概要

- (1)事業者名 光和工業株式会社
- (2)代表者名 取締役 斉藤 征夫
- (3)所在地 〒140-0011  
東京都品川区東大井2丁目6番1号
- (4)環境保全関係の担当者連絡先  
環境管理責任者 若松 行夫  
連絡担当者 安達 由美子  
連絡先 電話:03-3458-1238  
FAX:03-3458-1338
- (5)事業活動 とび・土工工事業、管工事業、鋼構造物工事業  
建築工事業、屋根工事業、内装仕上工事業、大工工事業、  
タイル・れんが・ブロック工事業、産業廃棄物収集運搬業
- (6)事業規模

活動規模	単位	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
売上高	指標	1.00	1.26	1.12	1.02
従業員	人数	9	9	9	9
事業所床面積	m <sup>2</sup>	365	365	365	365

売上高は、2010年度を基準とし。指標値で示す。
- (7)活動対象年度  
認証申請時 2013年7月～2013年9月  
事業年度 当年7月～翌年6月
- (8)環境活動レポート公表
  - ・次回作成予定 2015年11月末予定
  - ・環境活動レポートは、公表する。(当社ホームページ)  
また当社内では書類を準備し、閲覧可能な状態を保つ。

(9-1)建設業の許可

建設業許可 番号;東京都知事 認可(般-26)第42416号等

許可種類・;とび・土工工事業、管工事業、鋼構造物工事業

建築工事業、屋根工事業、内装仕上工事業、大工工事業、

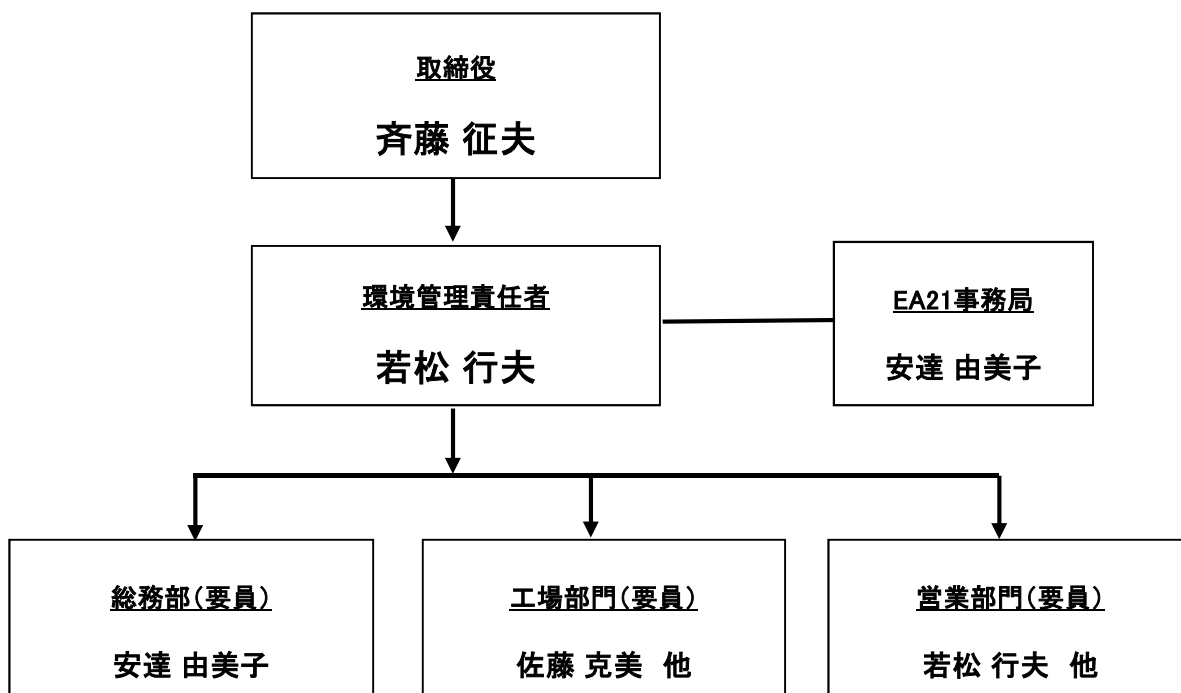
タイル・れんが・ブロック工事業

有効期間 ;平成31年8月19日

(9-2)産業廃棄物収集運搬業の許可

都道府県及び政令市	区分	許可取得年月及び有効期限	許可番号
東京都	収集運搬業	取得年月日;平成25年3月30日 許可年月日;平成25年3月30日 有効期限日;平成30年3月29日	第13-10-052520号
許可内容;産業廃棄物の処理及び清掃に関する法律第14条第一項の許可			
資本金	500万円		
法人設立年月日	昭和36年11月		
収集運搬事業計画の概要;エコアクション21取得 ①東京都内の現場より排出される廃棄物の収集運搬作業 ②神奈川県内の現場より排出される廃棄物の収集運搬作業 ③千葉県内及び埼玉県内の現場より排出される廃棄物の収集運搬作業			
運搬車両の種類と台数	キャブオーバー 品川100す7573(4t) 品川430せ5055(2t) 品川100す9861(2t) 以上3台		
積替保管施設;面積と保管上限量	26.58m <sup>3</sup> 約10m <sup>3</sup>		
運搬処理実績	2014年度(2013/10~2014/9) *廃プラ;18.2トン *金属くず;183.7トン *ガラス、陶器クズ等;2.7トン		
収集運搬料金	個別見積りによる		

(9-3)環境体制(本社・工場)



・役割、責任及び権限

代表者(社長)	環境方針の策定
	環境管理責任者の指名
	経営資源の準備
	法規制遵守、目標、実施計画等の指示と承認
	環境活動レポートの承認
	環境経営システムの見直しと指示
環境管理責任者	環境経営システムの構築と維持
	環境経営システムの実施状況の確認と評価
	代表者への報告
	変化している世の中の環境情報の把握 (顧客要求、法規制の改正情報等)
	環境活動に関わる会議等の開催、グリーン購入の指示
	環境活動レポートの作成
EA21事務局	環境管理責任者の指示により環境活動をサポート
	環境負荷データのとりまとめ
	環境外部コミュニケーションの窓口
要員	環境活動の運用と実施状況の把握
	目標、実施計画の遂行
	環境管理責任者の指示により、グリーン購入を推進(担当者)

\*要員には、代表者及び環境管理責任者を含む

#### 4. 環境目標とその実績及び評価

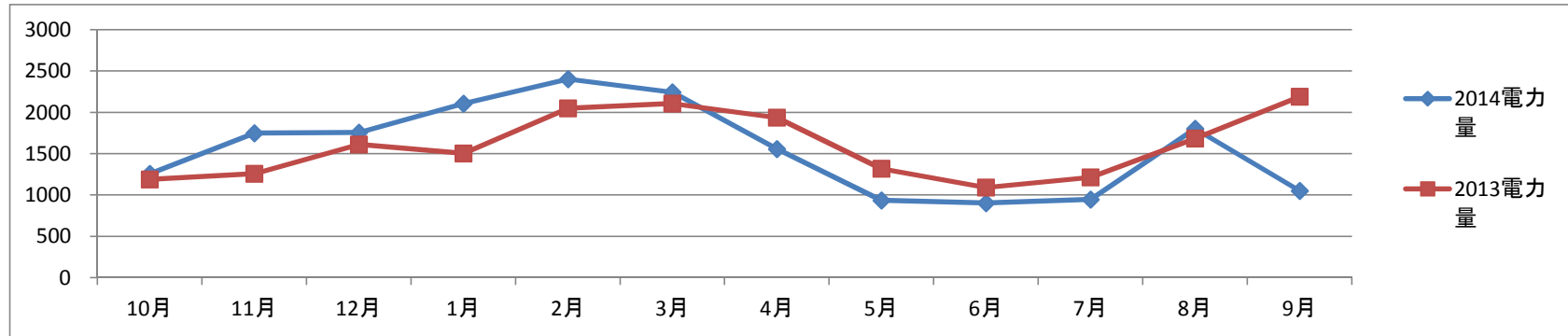
環境方針	環境目標	基準値(10月～9月)		2014年度目標 (10月～9月)	2014年度実績 (10月～9月)	評価	評価内容
		2013年度 実績	基準値設定	目標値 (基準値比1%減)	実績値		
自らが施工・提供する製品及びサービスに関する事業活動	・事業に関わる苦情“0” ・指標:前年比半減	----	----	0	0	○	
	環境配慮工法の工夫と推進	----	----	定性目標 活動計画による	計画の評価による	△	期中で再設定した為、 周知不足
	収集運搬に係る作業の環境負荷低減 ①収集運搬時の交通ルートを検討する	----	----	定性目標 活動計画による	計画の評価による	△	期中で再設定した為、 周知不足
	②収集運搬車の燃比向上(km/ℓ)	----	----	データ把握	未把握	△	期中で再設定した為、 周知不足
二酸化炭素排出量の削減	二酸化炭素排出量の削減(kg-CO2/kwh)	25,956	25,956	25,698	33,278	×	遠距離現場の増加
購入電力使用量の削減	電力使用量の削減(Kwh)	19,161	19,161	18,969	18,724	○	
石油起源エネルギー使用量削減	ガソリン使用量の削減(ℓ)	418	418	414	571	×	遠距離現場の増加
	軽油使用量の削減(ℓ)	6,133	6,133	6,072	8,865	×	遠距離現場の増加
	高圧ガス使用量の削減(m <sup>3</sup> )	0	維持管理	データ把握	0	○	
廃棄物排出量の削減	事業系不燃ゴミの削減(kg)	不明	設定せず	データ把握	未把握	△	周知不足であった
	事業系可燃ゴミの削減(kg)	不明	設定せず	データ把握	未把握	△	周知不足であった
	産業廃棄物排出量の維持管理(kg)	0	0	データ把握	0	○	
総排水量の削減	水使用量の削減(m <sup>3</sup> )	138	138	137	119	○	
PRTR対象化学物質使用量の削減	有機溶剤・塗料等の使用量の削減(kg)	48	維持管理	データ把握	66.8	○	
有害化学物質不使用の管理	・顧客要求のグリーン調達の遵守 ・製品に係る化学物質情報の把握と収集 ・製品のSDSの収集	100%	100%	100%	100%	○	
グリーン購入の推進	グリーン購入の推進	不明	設定せず	データ把握	未把握	△	新規購入殆どなし
収集運搬事業; 産業廃棄物量届出実績(t)	・廃プラスチック	8.48	設定せず	データ把握	18.2	△	顧客依頼の収集運搬
	・木くず	0.22	設定せず	データ把握	0	△	顧客依頼の収集運搬
	・金属くず	69.37	設定せず	データ把握	183.7	△	顧客依頼の収集運搬
	・ガラス・陶器・コンクリート混合くず	1.63	設定せず	データ把握	2.7	△	顧客依頼の収集運搬
	・がれき類	0.1	設定せず	データ把握	0	△	顧客依頼の収集運搬
金属有価物排出量(kg)	・鉄・銅・アルミ材等の素材金属くず	不明	設定せず	データ把握	未把握	△	有価物処分時の計量励行
自社資源ごみ排出量(kg)	廃段ボール	不明	設定せず	データ把握	未把握	△	
	紙類	不明	設定せず	データ把握	未把握	△	
再生資源化率	$\frac{\text{自社資源ごみ排出量}}{\text{自社資源ごみ排出量}+\text{廃棄物排出量}}$	不明	設定せず	データ把握	未把握	△	データ把握後、算出

評価印 ○達成 ▲監視 ×未達成

購入電力の二酸化炭素排出係数:0.464(kg-CO2/kWh)

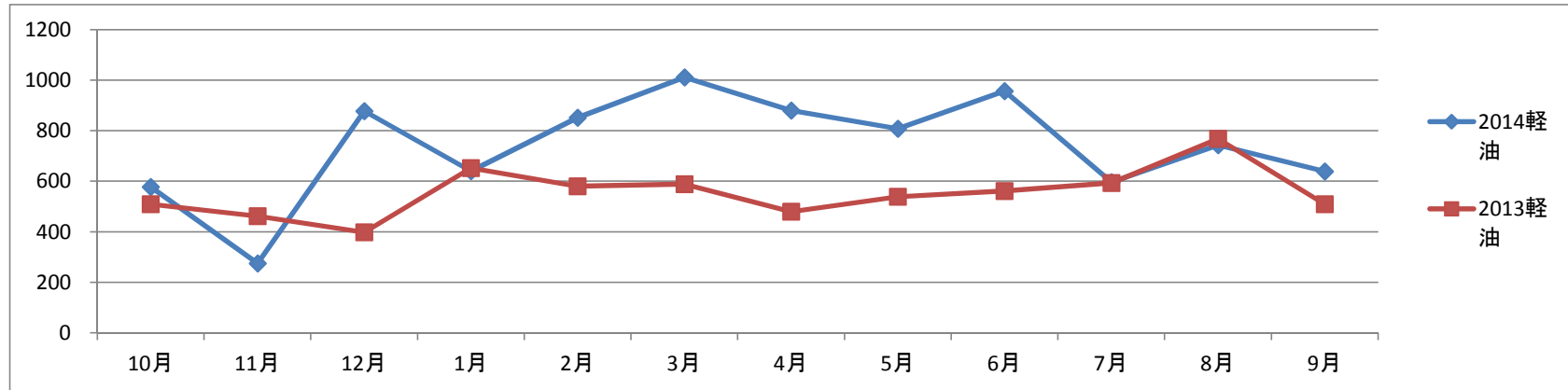
年度月別電力使用量推移(kwh)

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2014電力量	1259	1751	1758	2108	2404	2244	1558	936	905	945	1805	1051
2013電力量	1189	1256	1612	1505	2050	2109	1938	1319	1092	1214	1686	2191



年度月別軽油使用量 推移(L)

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2014軽油	578	275	879	641	852	1012	881	809	957	596	744	639
2013軽油	509	462	398	653	580	589	480	539	561	594	768	510





## 5. 環境活動計画

### (1) 共通（本社・工場、現場工事）

主項目		活動計画	時期	責任者
エネルギー消費削減	電力使用量の削減	①エアコンを適正温度管理を実施する。 夏季設定28℃、冬季20℃、定期的にフィルター清掃実施する。 ②不在時の消灯と休憩時間消灯の徹底管理を実施する。 ③稼動していない機械電源OFFを実施する。	日常	管責
		①卓上の蛍光灯を配置、減灯に努める。 ②パソコンOA機器等、省エネモードに切り替え実施する。 ③ブラインドの調整による日射の遮断自然光の確保による照明効果の取り入れ実施する。	日常	管責
	ガソリン及び軽油使用量の削減	①アイドリングストップ実施する。 ②急発進、急停止、しない運転を実施する。 ③適正な積載量を維持する。	日常	管責
	灯油使用量の削減	①冬季室内温度16℃から20℃を目安として、温度管理を実施する。 ②不在時の消火の徹底管理。	日常	管責
個別計画	水使用量の削減	①節水の意識を徹底する	日常	管責
	廃棄物の削減	①一般ごみ、資源の分別管理による廃棄物削減及びリサイクルの向上とデータ収集を実施。	日常	管責
		①廃棄していた紙類を資源とする。 ②機密文章はシュレッダーにかけた後、クッション材として再利用する。 ③ダンボールなど繰り返し再利用する。	日常	管責
		①産業廃棄物排出量の継続把握。	日常	管責
	資源(材料)使用量の削減	①不良品のデータ収集、改善指導。 ②是正処置を行い品質部門と連携を図る。	日常	管責
		①品質検査及び不良品を削減する為、現状把握し情報を共有する。	日常	管責
	化学物質管理の徹底	①適正管理及び保守点検	日常	管責
	環境教育・訓練	①環境教育・訓練を実施する。 ②定例会を実施する。	日常	管責
グリーン購入	新規事務用品購入時、100%実施	日常	管責	
社会貢献	①敷地内の緑化 ②雨水タンクの設置と貯水を行い、岸壁緑化 ③養蜂 ④地域清掃	日常	管責	
製品及びサービスに関する事業活動	・事業に関わる苦情“0” ・指標：前年比半減	①元請の現場監督の指示を守る。 ②始業・終了時に、経営者への報告を励行。	日常	管責
	環境配慮工法の工夫と推進	①オリエンテーション時、引き合い時等、顧客提案。 ②現場でのプチ改善励行。 ③元請現場監督の指示を順守する。 ④現場での工事関係者と一般通行者の交通路分離。 ⑤電力制限容量付きブレーカーの使用。	日常	管責
	①収集運搬時の適切な交通ルートを検討する ②収集運搬車の燃比向上	①交通KYシート作成。 ②アイドリングストップ実施する。 ③急発進、急停止、しない運転を実施する。 ④適正な積載量を維持する。 ⑤自社運搬基準の遵守 ⑥廃棄物運搬の積載工夫	日常	管責

## (2) 現場工事特有分（現場のスローガン；安全第一）

	主項目	活動計画	時期	責任者
工事現場固有の活動計画及びその他	教育	①作業者送り出し教育の実施確認	日常	管責
	現場代理人への報告	②始業・終業時の現場代理人への報告徹底	日常	管責
	退出時の注意	③作業現場毎の特有事項を確認する 現場代理人の指示に従い退出 退出時の荷物整理、整頓、清掃	日常	管責
	廃棄物処理(下請負)	④工事現場の廃棄物分別徹底	日常	管責
	省資源	⑤可能な限り、建設資材の再利用	日常	管責
	運搬	⑥積載物と積載重量の遵守	日常	管責
	作業手順の遵守	⑦現場毎の作業手順書、施工場所、施工図を確認し、手戻り作業防止	日常	管責
	作業手順の遵守	⑧資材おろし後、指定場所へ必ず移動する	日常	管責
	省エネ・省資源	⑨発電機不使用時のエンジン停止	日常	管責
	顧客要求	⑩各現場の現場代理人の指示による 安全ブレーカ等の持参	日常	管責
	作業終了時の会社報告	⑪カエルコールの励行	日常	管責
	清掃・整理整頓	⑫毎作業ごと、現場及び周辺の清掃、整理整頓の励行(毎日)	日常	管責

(2)建設現場の環境活動

①主な対象工事物件例

番号	項目	内容
1	工事件名	墨田水防対策衛生その他工事
	現場住所	東京都墨田区石原4-36-1
	工事概要	搬入据付・撤去・養生・足場工事
	工事期間	2013年10月～2014年
	請負の区分	下請
2	工事件名	大宮桜木町一丁目計画(仮称)新築工事
	現場住所	埼玉県さいたま市大宮区桜木町4-80-1
	工事概要	搬入据付・金物工事
	工事期間	2014年2月～2014年12月
	請負の区分	下請
3	工事件名	川口郵便局空調設備模様替工事
	現場住所	埼玉県川口市本町2-2-1
	工事概要	撤去工事
	工事期間	2014年3月～2014年12月
	請負の区分	下請
4	工事件名	横浜港(DEX棟・ENG)模様替空調その他工事【空
	現場住所	神奈川県横浜市中区山下町198
	工事概要	搬入据付・撤去・移設工事
	工事期間	2013年11月～2014年3月
	請負の区分	下請
5	工事件名	(株)カマタ土気工場
	現場住所	千葉県千葉市緑区大野台2-8-4
	工事概要	撤去搬出・機器移設その他工事
	工事期間	2014年4月～2014年5月
	請負の区分	元請

②建設現場の現状

番号	項目	単位	内容	評価
1	年間概略工事件数	件数	83	○
2	電力使用量	kwh	計測不能(元請の管理)	○
3	ガソリン使用量	ℓ	本社集計	○
4	軽油使用量	ℓ	本社集計	○
5	水使用量	m <sup>3</sup>	計測不能(元請の管理)	○
6	塗料・有機溶剤使用量	kg	本社集計	○
7	事業系一般廃棄物 (弁当容器等)	kg	持ち帰り、本社集計	○
8	産業廃棄物	kg	計測不能(元請の管理)	○
9	建設現場の環境負荷 低減活動	----	作業見直し、思ったより進まなかった。安全作業優先のなか、全員で協議し活動内容を確認した、次年度で実行	○

建設現場における環境活動は、現場の業務環境が異なり、一律に実施項目を定められない。

建設現場では安全第一とし、全て元請現場責任者の指示に従う。

- ・現場の責任は元請けであり、当社の業務は元請けの指示のもとに実施している。
  - ・電力・廃棄物・水道等の環境負荷は、元請けが管理しており、数値で把握できない。
  - ・ガソリン・軽油の化石燃料については、本社で集計している。
- したがって、工事現場ごとの環境活動の結果が、どのような効果をもたらしたかは、判断しにくい。
- ・建設現場での環境活動について、作業内容を見直して環境活動計画を検討した。次年度から実行する。

## 6. 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

### (1) 共通（本社・工場、現場工事）

主項目		活動計画	取組結果	実施者	評価	次年度の取組
エネルギー消費削減	電力使用量の削減	①エアコンを適正温度管理を実施する。 夏季設定28℃、冬季20℃、定期的にフィルター清掃実施する。 ②不在時の消灯と休憩時間消灯の徹底管理を実施する。 ③稼動していない機械電源OFFを実施する。	実施	各要員	○	継続
		①卓上の蛍光灯を配置、減灯に努める。 ②パソコンOA機器等、省エネモードに切り替え実施する。 ③ブラインドの調整による日射の遮断自然光の確保による照明効果の取り入れ実施する。	実施	各要員	○	継続
	ガソリン及び軽油使用量の削減	①アイドリングストップ実施する。 ②急発進、急停止、しない運転を実施する。 ③適正な積載量を維持する。	実施	各要員	○	継続 ・トラックの燃比データ把握
	灯油使用量の削減	①冬季室内温度16℃から20℃を目安として、温度管理を実施する。 ②不在時の消火の徹底管理。	実施	各要員	○	継続
個別計画	水使用量の削減	①節水の意識を徹底する	実施	各要員	○	継続
	廃棄物の削減	①一般ごみ、資源の分別管理による廃棄物削減及びリサイクルの向上とデータ収集を実施。	実施	各要員	○	継続
		①廃棄していた紙類を資源とする。 ②機密文章はシュレッダーにかけた後、クッション材として再利用する。 ③ダンボールなど繰り返し再利用する。	実施	各要員	○	継続
		①産業廃棄物排出量の継続把握。	実施	各要員	○	継続
	資源(材料)使用量の削減	①不良品のデータ収集、改善指導。 ②是正処置を行い品質部門と連携を図る。	実施	各要員	○	継続
		①品質検査及び不良品を削減する為、現状把握し情報を共有する。	実施	各要員	○	継続
	化学物質管理の徹底	①適正管理及び保守点検	実施	各要員	○	継続
	環境教育・訓練	①環境教育・訓練を実施する。 ②定例会を実施する。	実施	各要員	○	継続
グリーン購入	新規事務用品購入時、100%実施	実施	各要員	○	継続	
社会貢献	①敷地内の緑化 ②雨水タンクの設置と貯水を行い、岸壁緑化 ③養蜂 ④地域清掃	実施	各要員	○	継続	
製品及びサービスに関する事業活動	・事業に関わる苦情“0” ・指標：前年比半減	①元請の現場監督の指示を守る。 ②始業・終了時に、経営者への報告を励行。	実施	各要員	○	継続
	環境配慮工法の工夫と推進	①オリエンテーション時、引き合い時等、顧客提案。 ②現場でのプチ改善励行。 ③元請現場監督の指示を順守する。 ④現場での工事関係者と一般通行者の交通路分離。 ⑤電力制限容量付きブレーカーの使用。	実施	各要員	○	継続
	①収集運搬時の適切な交通ルートを検討する ②収集運搬車の燃比向上	①交通KYシート作成。 ②アイドリングストップ実施する。 ③急発進、急停止、しない運転を実施する。 ④適正な積載量を維持する。 ⑤自社運搬基準の遵守 ⑥廃棄物運搬の積載工夫	実施	各要員	○	継続

評価印 ○達成 × 活動不足 △ 監視

(2) 現場工事特有分（現場のスローガン；安全第一）

主項目	活動計画	取組結果	実施者	評価	次年度の取組
教育	①作業者送り出し教育の実施確認	実施	各要員	○	継続
現場代理人への報告	②始業・終業時の現場代理人への報告徹底	実施	各要員	○	継続
退出時の注意	③作業現場毎の特有事項を確認する 現場代理人の指示に従い退出 退出時の荷物整理、整頓、清掃	実施	各要員	○	継続
廃棄物処理(下請負)	④工事現場の廃棄物分別徹底	実施	各要員	○	継続
省資源	⑤可能な限り、建設資材の再利用	実施	各要員	○	継続
運搬	⑥積載物と積載重量の遵守	実施	各要員	○	継続
作業手順の遵守	⑦現場毎の作業手順書、施工場所、施工図を確認し、手戻り作業防止	実施	各要員	○	継続
作業手順の遵守	⑧資材おろし後、指定場所へ必ず移動する	実施	各要員	○	継続
省エネ・省資源	⑨発電機不使用時のエンジン停止	実施	各要員	○	継続
顧客要求	⑩各現場の現場代理人の指示による 安全ブレーカ等の持参	実施	各要員	○	継続
作業終了時の会社報告	⑪カエルコールの励行	実施	各要員	○	継続
清掃・整理整頓	⑫毎作業ごと、現場及び周辺の清掃、整理整頓の励行(毎日)	実施	実施	実施	実施

工事現場固有の活動計画及びその他

## 7. 中期目標

環境方針	環境目標	基準値(10月～9月)		2014年度目標 (10月～9月)	2014年度実績 (10月～9月)	2015年度目標 (10月～9月)	2016年度目標 (10月～9月)
		2013年度 実績	基準値設定	目標値 (基準値比1%減)	実績値	目標値 (基準値比2%減)	目標値 (基準値比3%減)
自らが施工・提供する製品及びサービスに関する事業活動	・事業に関わる苦情“0” ・指標:前年比半減	----	----	0	0	0	0
	環境配慮工法の工夫と推進	----	----	定性目標 活動計画による	計画の評価による	定性目標 活動計画による	定性目標 活動計画による
	収集運搬に係る作業の環境負荷低減 ①収集運搬時の交通ルートを検討する	----	----	定性目標 活動計画による	計画の評価による	定性目標 活動計画による	定性目標 活動計画による
	②収集運搬車の燃比向上(km/ℓ)	----	----	データ把握	0	目標値設定	目標値検討
二酸化炭素排出量の削減	二酸化炭素排出量の削減(kg-CO2/kwh)	25,956	25,956	25,698	33,278	25,437	25,176
購入電力使用量の削減	電力使用量の削減(Kwh)	19,161	19,161	18,969	18,724	18,778	18,586
石油起源エネルギー使用量削減	ガソリン使用量の削減(ℓ)	418	418	414	571	410	405
	軽油使用量の削減(ℓ)	6,133	6,133	6,072	8,865	6,010	5,949
	高圧ガス使用量の削減(m <sup>3</sup> )	0	維持管理	データ把握	0	データ把握	データ把握
廃棄物排出量の削減	事業系不燃ゴミの削減(kg)	不明	設定せず	データ把握	未把握	目標値設定	目標値検討
	事業系可燃ゴミの削減(kg)	不明	設定せず	データ把握	未把握	目標値設定	目標値検討
	産業廃棄物排出量の維持管理(kg)	0	0	データ把握	0	データ把握	データ把握
総排水量の削減	水使用量の削減(m <sup>3</sup> )	138	138	137	119	135	134
PRTR対象化学物質使用量の削減	有機溶剤・塗料等の使用量の削減(kg)	48	維持管理	データ把握	66.8	データ把握	データ把握
有害化学物質不使用の管理	・顧客要求のグリーン調達の遵守 ・製品に係る化学物質情報の把握と収集 ・製品のSDSの収集	100%	100%	100%	100%	100%	100%
グリーン購入の推進	グリーン購入の推進	不明	設定せず	データ把握	未把握	目標値設定	目標値検討
収集運搬事業; 産業廃棄物量届出実績(t)	・廃プラスチック	8.48	設定せず	データ把握	18.2	データ把握	データ把握
	・木くず	0.22	設定せず	データ把握	0	データ把握	データ把握
	・金属くず	69.37	設定せず	データ把握	183.7	データ把握	データ把握
	・ガラス・陶器・コンクリート混合くず	1.63	設定せず	データ把握	2.7	データ把握	データ把握
	・がれき類	0.1	設定せず	データ把握	0	データ把握	データ把握
金属有価物排出量(kg)	・鉄・銅・アルミ材等の素材金属くず	不明	設定せず	データ把握	未把握	データ把握	データ把握
自社資源ごみ排出量(kg)	廃段ボール	不明	設定せず	データ把握	未把握	データ把握	データ把握
	紙類	不明	設定せず	データ把握	未把握	データ把握	データ把握
再生資源化率	$\frac{\text{自社資源ごみ排出量}}{\text{自社資源ごみ排出量}+\text{廃棄物排出量}}$	不明	設定せず	データ把握	未把握	データ把握	目標値設定

購入電力の二酸化炭素排出係数:0.464(kg-CO2/kwh)

## 8. 環境関連法等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

摘要法規則・条例	遵守事項	評価
品川区廃棄物の処理及び再利用に関する条例	ごみの減量、有料ごみ処理業による徴収 ・事業系一般廃棄物の種類及び量 ・収集運搬料金及び処分料金	○
容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律	容器包装廃棄物の分別等	○
東京都廃棄物条例	産業廃棄物の減量及び適正な処理	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	保管基準	○
	委託基準	○
	特別管理産業廃棄物内容に関する事前通知	○
	産業廃棄物管理票の管理(公布、返却期間、保管)	○
	自ら収集・運搬	○
東京都産業廃棄物の適正処理に向けた「報告・公表制度」	搬入・搬出実績や廃棄物の保管状況、施設の稼働状況など	○
建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(建設リサイクル法)	再資源化等実施義務	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善に関する法律(PRTR法)	化学物質使用量の抑制及び管理	○
都民の健康と安全を確保する環境に関する条例(東京都環境確保条例)	・指定化学物質 ・年間100kg以上の使用	対象外
オフロード法	特定特殊自動車排出ガスの規制等	○
高圧ガス保安法	貯蔵の規制	○
消防法	・危険物の保管	○
	・警報器等の設置義務	○
下水道法	指定物質	対象外
騒音規制法	特定施設設置の届け出 (空気圧縮機 定格出力 7.5KW以上)	対象外
振動規制法	特定施設設置の届け出 (空気圧縮機 定格出力 7.5KW以上)	対象外
品川区騒音規制	騒音の規制	○
品川区振動規制	振動の規制	○
都民の健康と安全を確保する環境に関する条例(東京都環境確保条例)	アイドリングストップ	○
都民の健康と安全を確保する環境に関する条例(東京都環境確保条例)	特定機器 (空調設備、冷蔵庫、自動車、圧縮機等)	○
使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)	使用済自動車の引き渡し	○
東京・千葉・埼玉・神奈川ディーゼル車走行規制(条例)	各知事が指定するPM現象装置を装着しないディーゼル車の走行	○

○印: 遵守

1. 行政等の所管届出書類は、エビデンスを保管する。
2. 契約書及び廃棄物処理票は、エビデンスとして保管する。
3. 環境管理責任者は、半期毎に法規制の変更を確認し、遵守法規を最新版に保つ。
4. 2014年12月末日現在、過去3年間において、違反・訴訟、並びに外部からの苦情はありません。

コメント:

東京都環境確保条例により、状況の報告を指定期日迄に行います。  
指定数量以上ならば、適正管理化学物質使用等届出。

## 9. 代表者による全体の評価と見直しの結果

(2013年10月～2014年9月)

代表者	斉藤 征夫	実施日:2014年12月4日
報告者	若松 行夫 (環境管理責任者)	
インプット情報	情報内容・資料等	経営者コメント
1. 当社に係る環境法規制、及びその他の要求事項遵守	遵守事項を一覧表にまとめて遵守状況を確認した。	最新版の状態を維持すること
2. 環境目標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二酸化炭素排出量、ガソリン・軽油の使用量が、超過した。</li> <li>・電力使用量は削減した。</li> <li>・その他項目は、達成または監視。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠距離工事現場の増加と往復の移動で思ったよりオーバーした。</li> <li>・その他項目は監視のこと。</li> </ul>
3. 環境活動計画の実施状況と評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施はした。次年度の活動は、同じ項目を行う。</li> <li>・活動内容を追加するものがあれば都度追加する。</li> </ul>	もう一度活動計画を確認して、計画通り実行すること。
4. 問題点の是正及び予防処置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境管理チームで問題点を抽出して検討する。</li> </ul>	ガソリン使用量と軽油使用量超過については、次年度で検討のこと(是正)
5. 外部からの苦情・要望等の有無及び訴訟の有無	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	引き続き遵守
6. 緊急事態の対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定される緊急事態は、火災予防しかない。書類は整備する。</li> </ul>	訓練結果は、有効であった
7. 変化している周囲の環境状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし(現時点では節電要請)</li> </ul>	省エネの実行
8. その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	なし
経営者の総合コメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EA21の環境活動は、要員の認識が高まってきたが、環境目標実績から見ると定着したとは、言えない。今後も活動を推進し意識の浸透を図ること。</li> <li>・工事現場の環境活動項目について、重点事項として検討してきた。全員で協議し活動内容整合できたので、次年度からは確実に実行すること。</li> <li>・廃棄物については、ゴミを分別することによるリサイクル化を考慮し、廃棄物の削減に努める。</li> </ul>	
変更の必要性可否判断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境方針</li> </ul>	変更せず
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境目標</li> </ul>	変更せず
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境活動計画</li> </ul>	変更せず
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営システム</li> </ul>	変更せず

\* 現場毎で、エネルギーや物質に使用量に変動があるため、そのデータを可能な限り把握する。  
また、活動を通して意見等があれば提案を行い活動の改善につなげていくこと。



## 10. 社会貢献

いま、地球環境の保全に取り組み、持続可能な社会をつくることは、人類共通の最重要課題です。環境保全型の持続可能な社会とは、地球の生態系のなかで人類が自然とともに、地域と共に、豊かな希望を持って人間らしく生き・暮らすことができると共に、経済的にも社会的にも向上し将来世代に継承することが出来る社会であり、その社会づくりに取り組むことは、弊社の使命と考えます。

弊社は設立以来、企業としての社会的使命と地域との関わり合いを重視し、いかに環境負荷の削減に貢献できるかを念頭に企業活動を行ってまいりました。

その具体的な活動の第一歩として、弊社敷地内の緑化の推進に取り組みました。この活動により、地域に快適で良好な景観を提供するとともに、微力ながらCO2の削減にも貢献できたと自負しております。

また弊社では、かねてより雨水利用タンクを設置し貯水を行ってききましたが、これを地域で進められている勝島運河の岸壁沿いの緑化活動の際、草花への水やり等に利用していただいております。

さらに、地域周辺の良好な環境づくりに貢献するという観点から、社屋屋上に養蜂箱を設置し、近隣の花やみどりの受粉促進を通じた周辺環境づくりに貢献してまいりました。ここで採取された蜂蜜は、大東文化大学環境創造学部・山口由二教授のもとで、蜂蜜内の分析線量の測定試料としても活用されており、環境づくりの一端を担っております。

このように弊社は、地域社会の責任ある一員として、自らの事業活動と環境保全との関わりを認識し、地球温暖化防止・環境保全の取り組みを進め積極的に行動することを宣言します。

そして、この活動は継続致します。

